

2013 Vol.4 特集「社会を生きる力を育む」へのご意見

このコーナーでは、編集部寄せられた読者の先生方からのご意見をご紹介します。

*『VIEW21』中学版のバックナンバーは「ベネッセ教育総合研究所」ウェブサイト(<http://berd.benesse.jp/>)でご覧いただけます。

◎現在、次年度のキャリア教育の全体計画（3年間）を作成中です。「課題整理」のページを基に、これまでの自校の取り組みについて振り返ることが出来ました。また、校区の小学校と9年間を見通したキャリア計画の作成を検討しているため、大阪府ゆめみらい学園高槻市立第四中学校の事例が大変参考になりました。

[北海道／R中学校]

◎藤田晃之教授と谷合しのぶ校長との対談でどきどきしたのは「職場体験が恒例行事になっていないか」という問い掛けです。まさに自分が担当した学年は、前年度の内容を踏襲したものになっていたからです。進める側としては踏襲すると楽でよいのですが、工夫をしないと打ち上げ花火的になってしまう危険性があるかもしれません。その意味で、東京都荒川区立諏訪台中学校の実践はさすがだなと思われました。

[岐阜県／M中学校]

◎愛知県名古屋市立千鳥丘^{ちどりがおか}中学校の実践の中で、「ドリカムカード」がとても参考になりました。パーソナルヒストリーの見える化によって「根拠のある自信」を付けさせる取り組みは、1年生から3年間積み上げれば、生徒の自覚と自信と意欲につながる事が期待できそうです。やはりキャリア教育は、一貫性、計画性、方向性を教師がしっかり把握し、生徒を良い方向に引っ張っていくことが大切であり、限られた時間数の中で効率的、効果的に指導できるかどうか、成果が上がるか、上がらないかの分かれ目になると思います。

[東京都／K中学校]

◎今の時代に、果たしてどれだけの人間が「自分でな

れば出来ない仕事」に就くことが出来るでしょうか。興味・関心を中心とした教育観のまんえんや、自分探し、自己実現を強調しすぎたこれまでの教育や進路指導が、若者の職業への適応を困難にしていると感じています。1人の社会人となるためには、もしかしたら潜在的には存在するかもしれない、自己の可能性を時には断念してでも、それぞれが関係する組織の内部で割り当てられた役割を、素直に、誠実に引き受ける気構えを、今の学校教育で培っていく必要があると感じます。

[島根県／K中学校]

◎「私を育てたあの時代、あの出会い」の中で、大分県佐伯市立佐伯城南中学校の國見義隆校長の「方針はしっかりと伝え、多くを語らず見守る」という言葉が心に残りました。リーダーとして常に念頭に置き、先生方との距離感を大事にしながらかけてゆくことが大切だと思います。

[千葉県／F中学校]

◎「Benesse 発 これからの教育」の大分県立大分豊府^{ほうふ}中学校の取り組みを読み、本校では電子黒板が使われずに眠っているような現状から、人材育成の大切さを痛感しました。ICTを使いこなせる教員育成が、モノの整備よりも重要だと考えます。

[福島県／K中学校]

◎「ミドルリーダーの挑戦」の東京都墨田区立本所中学校の駒田のみ子先生の記事を読み、皆同じような経験をしてきているとしみじみ感じました。今、職員室で私の隣の席の先生は、新卒1年目の壁にぶつかっているようです。優しい周囲の声掛けがいかに大切であるかを、目の当たりにしています。

[北海道／K中学校]

子どもは未来

ベネッセ教育総合研究所は、
子どもたちの成長に寄り添う研究と
社会への発信を通して、
一人ひとりが学びに向かい、
今と未来を“よく生きる”ことに
貢献することを目指しています。

ベネッセ教育総合研究所

編集後記

田中洋一先生のインタビュー記事にある、「日頃から自由に話せる雰囲気をつくる」について、これは先生方の関係性にも当てはまるように感じました。『VIEW21』で取材させていただく学校には、先生方が風通しよくお話しされる風土があり、そこには校長先生のリーダーシップを始めとする信頼関係や団結力が土台にあるように思います。先生方に情報提供をしている我々もそうでありたいと感じました。

『VIEW21』中学版編集長 小林奈緒

VIEW21 中学版 2014 Vol.1

2014年6月2日発行／通巻第321号

発行人 谷山和成
編集人 小泉和義
発行所 (株)ベネッセホールディングス

◎お問い合わせ先

情報編集室
〒206-0033

印刷製本 凸版印刷(株)
編集協力 (有)ペンダコ
執筆協力 中丸満
撮影協力 荒川潤、川上一生、筒井岳彦
イラスト協力 カモ、幸剛

東京都多摩市落合1-34
電話 042-311-3390

© Benesse Holdings, Inc. 2014